

令和 年 月 日

保護者各位

子宝保育園 園長

保護者の皆さまにご理解いただきたい大切なこと
(お子さんたちのかみつき、ひっかき)

子どもに自我(「わたし」「ぼく」)が生まれてくると、かみつきやひっかきが始まります。「それ、ぼくの」「ほしいな、それ」「わたし、やだ」…、こういった気持ちがあっても、まだ言葉にはなりません。だから、かみついたり、ひっかいたりします。または、目の前に出てきた誰かの指や顔に、手や口が出ることもあります。

これは成長発達のひとつの特徴です。こどもたち全員がかみつきやひっかきをするわけではありませんが、かみつきやひっかきが終わらないことも絶対にありません。誰かを傷つけようという気持ちも、子どもにはありません。反対に、「〇〇ちゃん、すき!」「あそぼう!」といった、他者に対する興味がかみつきやひっかきのような行動として出ることもあります。

私たち保育者は、子どもたちが幼いながらも言葉で気持ちを表現できるよう働きかけをしています。ほかのお子さんのおもちゃを取ろうとし始めたら「使いたいのかな? 『かして』って言ってごらん」と伝えますし、ほかのお子さんの顔の前に手を出したら「どうしたの?」と声をかけて、そのお子さんの気持ちをくみとる努力をします。けれども、時として私たちの声かけや働きかけが間に合わないこともあります。

言うまでもありませんが、保育の専門家として私たちは、子どもたちがかんだりひっかいたりすることを放置はしません。できる限り止めて、気持ちを受けとめ、言葉にするよう伝えます。かみつきやひっかき起きた時には適切に処置して、必要に応じて保護者の方にもお伝えします。保護者の皆さんにぜひご理解いただきたいのは、かみつきやひっかきは、「加害」や「被害」といった言葉で表現すべきものではない、ということです。かみついた子どもは「悪い子」ではありません。自分が遊んでいるおもちゃをひっぱられて、「やだ!」という気持ちになるのは、もっと年長の子どもでも同じです。ただ、乳幼児の場合は「やめて!」「わたしが遊んでるの!」という言葉よりもずっと先に、手や口が出がちなのです。

あなたのお子さんが園や別の所で誰かをかんだ、保護者の方をかんだ、ひっかいたという時には、「どうしてかんだの(ひっかいたの)? 話して」とやさしく尋ねてください。「悪い子!」と言ってしまったら、お子さんは心の中にある気持ちを表現できなくなってしまいます。まだ言葉でうまく言えないから、かんだり、ひっかいたりするのです。言葉にできなくても怒らないで、「かんだら(ひっかいたら)痛いんだよ」「言えるようにしていこうね」とやさしく伝えてあげてください。お子さんは、なにかを伝えようとしているのですから。かみつきやひっかきは、「特別な行動」でも「悪い行動」でもなく、子ども同士のかかわりや「仲良し」の中に出てくるものだからです。

最後になりますが、生え始めた歯がかゆくてかむ、ということもあります。ご家庭でそういった様子が見られ始めたら、園にもお伝えください。私たちも、同様のことが見られましたらお伝えしていきます。保護者の皆さまと保育園の二人三脚で、子どもたち一人ひとりの成長、そして、子どもたちがお互いにかかわりあいながら育っていく姿をしっかりと見守っていきましょう。